

8/2(土) まいど! 倫理号です。又々台詞です。これも悩み
た心ばかり、楽しんでから苦難な心です。

第九巻が 附一巻

八月のテーマ 逆境のときこそ

悩みがあるから前進する

丸山竹秋



え・小島サエキチ

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一～一九九九）のこゝとばを掲載します。

人 生に悩みがあることによつて、その人はさらに前進できる。悩みとは、人なり、集団なり、民族なりの前進、進歩の親である。

家がせまく、古くもなつた。家族が多くて悩みも多い。何とか建てましをしたい。できればべつに家を求めたい。むつかしいけれど、こうした悩みがあれば、つぎのう

つき、貯蓄の率を多くする。愚痴をやめて、将来の計画をはつきりさせ、仕事に精をだす。やれるだけのことを、毎日せつせとやつてのける。これは前からみれば、一段の進歩である。

子どもが悪遊びをする。ケンカもやる。かっぱらいもした。注意をしても、きき目が無い。どうすればよいのか。親の悩みは深刻である。

だが、ここから親の前進が始まるのだ。学校の先生に積極的に質ねる。先生から、さらに権威ある専門家を紹介してもらおう。子どもは親の心を実演すると教えられた。

親のどこにスキがあるのか。夫婦の気持ちが一一致しているか。親の仕事に打ち込んでやっているか。子どもを一方的に責めているようなところがありませんか。たしかにある。これではいけない。まず親の生活から建て直した。こうして前進が始まる。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。精神的な問題は、ほかにはないか。精神的な問題は、いろいろとある。自分の力では、どうにもならないのに、あれこれと心をつかっている。これでは、どこまでいっても駄目だ。自分でどうにもならないなら、きれいさっぱり、人にまかせ、天地自然のなりゆきにゆだねるほかはない。そうだ、そうしよう。それでゆこう。

例をあげればきりがなく続くが、集団でも民族的なことでも同じ、すべての悩みから進歩が生ずるのである。悩みをそのままほってお

くのではなく、これらに正しく対処してゆけば、かならず新しい前途が始まるのである。

自分の、団体の、民族の思うようにならぬところから悩みが生ずる。すべて思い通りに運べば、べつに悩みはないのだ。だが、思い通りになることほど、危険なことはない。安住、わがまま、ごうまん、思いあがり、その他……個人的にも、集団的にもそこに進歩は生まれず、むしろ危険な状態さえ発生する。

自己はすべて他との関連の中で生きていく。人や物、大自然との間がらで、生命が維持されてゆく。だから思い通りにならず、悩みがいろいろと生ずるのが、むしろあたりまえなのである。悩みは苦難にも通ずる。

どこがどうなつて悩みが生ずるのかと、これを客観視し、その原因をさぐり、障害を克服しようとする。そこにこそ進歩があるのである。悩みこそ、人生の妙味の源泉である。

（単行本『つねに活路あり』より）